ちりめん本　英語版とスウェーデン語版の比較

松村 裕子

A Study on Crepe Paper Books Comparing English-translated and Swedish-translated

MATSUMURA, Yuko

要旨

1885年に長谷川武次郎が，英訳日本昔噺をちりめん加工した紙に印刷して発売した。当初は日本人の英語学習用にと考えられていたようだが，その美しさと珍しさから外国でも人気が高まり，英語以外の言語にも訳されるようになる。スウェーデン語版は，Konni Zilliacus（1855-1924）の訳により，*MOMOTARO*（桃太郎），*Sparfven med den Klippta Tungan*（舌切雀），*GUBBEN OCH TROLLEN*（瘤取）の三冊が1896年にヘルシンキの Wentzel Hagelsmans Förlag から出版された。Zilliacusの文章をみると，英訳ちりめん本の他に，A.B.Mitford の *Tales of Old Japan*（1871）を参照したり，日本の民俗について加筆したり，物語の展開をわかりやすくするために展開の理由などを書き加えていることが明らかになった。これは，スウェーデン語版ちりめん本が，最初から日本国外の読者を想定して作られたためと言えよう。

キーワード

ちりめん本，スウェーデン語，桃太郎，舌切り雀，瘤取

１．はじめに

ちりめん本とは，和紙をちりめん加工してつくった和綴じの書籍のことであるが，特に長谷川武次郎（1853-1936）が出版した欧文による日本昔話のシリーズを指して用いられることが多い。

1885（明治19）年，長谷川武次郎が，英語学習の教材として，英訳昔話絵本の発売を開始した。最初に英訳されたものは「桃太郎」「舌切雀」「猿蟹合戦」「花咲爺」「勝々山」「鼠嫁入」で，タムソン（David Thompson, 1835-1915）が文章を担当している。やがてその美しさと珍しさから国外でも珍重され，シリーズのタイトルが増えるとともに，フランス語版，ドイツ語版，スペイン語版，ポルトガル語版などが発売される。

スウェーデン語版は，コンニ・ジリアクス（Konrad Victor Zilliacus, 1855-1924）によって，ヘルシンキ Helsingforsの出版社 Wentzel Hagelstams Förlagから，*MOMOTARO*（桃太郎），*Sparfven med den Klippta Tungan*（舌切雀），*GUBBEN OCH TROLLEN*（瘤取）の三冊が出版された[注1]。出版年は1896年とみなされている[注2]。

1904～1905年の日露戦争の影響はフィンランドに波及し，日本語学習者を生んだとされる（小川，2008）。訳者のジリアクスは，日露戦争で日本と協力関係にあったと言われており，三冊のちりめん本は日本とフィンランドの関係が強化されていく過程を示すものとも捉えられよう。

従来，英語版からの重訳によって他国語版が記されたと考えられてきた。しかし，スウェーデン語版は，英語版と内容的に異なる部分が散見される。本論では，英語版とスウェーデン語版を比較し，スウェーデン語版がなにを基に訳出されたのかを検討する。

２．コンニ・ジリアクス（Konrad Victor Zilliacus）

1855年ヘルシンキで生まれ，1872年よりKejserliga Alexander大学で学ぶ。1878年に11歳年上の未亡人Lovisa Adelaide Ehrnroothと結婚。パリ万国博覧会にフィンランドが参加するために尽力するが，1888年，農場経営に失敗したことをうけ単身アメリカに渡る。アメリカではHufvudstadsblad紙の特派員として記事を送る。1891年離婚。1892年に*Utvandrarehistorier*，1893年に*Amerikas Förenta stater* を発表。ストックホルムからアメリカに戻る船上で，Lilian Graef（1873-1938）と知り合い，結婚する。

1893年，妻と来日し，日本で二人の子ども（Konni 1894-1967, Laurin 1895-1959）をもうけている。1896年秋に一家でパリに渡り，1898年フィンランドへ戻る。その後，フィンランド独立へ向けて尽力する。1924年没。

日本滞在中に，*Japanesiska studier och skizzer*（1896），前述のちりめん本三冊をヘルシンキの書店から発行している。

３．ちりめん本 *MOMOTARO*

3-1.「桃太郎」の英語版とスウェーデン語版の比較

英語版の桃太郎は*MOMOTARO*と題され，タムソンによって執筆されている。絵は小林永濯。

3-1-1冒頭部分，3-1-2桃太郎が誕生する場面，3-1-3お供の動物たちと出会う場面，3-1-4鬼の王を懲らしめ宝を得る場面にについて，スウェーデン語版と英語版を比較する。

3-1-1. 冒頭部分

【スウェーデン語版】

何百年もむかし，日本のある川の辺りに，年老いたきこりとその妻が暮らしていました。息子がいてくれたらと思い，神々に子どもを授けて下さいとお願いしていましたが，子どもに恵まれませんでした。

FÖR några hundra år sedan lefde där i närheten af en flod i Japan en gammal vedhuggare och hans hustru. De voro barnlösa, ehuru de alltid önskat sig en son och ofta bedt gudarna skänka sig barn.

【英語版】

A long long time ago there lived an old man and an old woman.

英語版では「爺」となっているが，スウェーデン語版では「きこり」と職業で表現されている。またスウェーデン語版では，子どもを欲しがっていることや，日本人の民間信仰の様子（子授けを神仏へ願う）が語られている。

【スウェーデン語版】

ある朝，きこりは森へ仕事に出かけ，妻は川へ洗濯に行きました。洗濯をしていると大きな桃が川を流れてきました。

En morgon, då vedhuggaren gått till skogen hände det att hans hustru begaf sig ned till floden att tvätta byke och medan hon höll på därmed såg hon en persika komma flytande med strömmen.

【英語版】

One day the old man went to the mountains to cut grass; and the old woman went to the river to wash clothes. While she was washing a great big thing came tumbling and splashing down the stream.

英語版では桃が流れてきたとははっきり語らず，「何やら大きなものが」という表現になっている。それに対して，スウェーデン語版では，「桃が流れてきた」とはっきり語っている。

3-1-2. 桃太郎が誕生する場面

【スウェーデン語版】

きこりが戻ると，妻は桃を持って出迎えました。けれども，きこりが桃を手に取ろうとした途端，桃がふたつに割れ，なかから小さな男の子が大きな泣き声をあげながら飛び出してきました。

Kort därpå återvände vedhuggaren och hustrun välkomnade honom med persikan. Men just då han stod i begrepp att taga frukten sprack den itu och fram kom ett litet gossebarn, som skrek med full hals.

【英語版】

When she cut the peach in two, out came a child from the large kernel. Seeing this the old couple rejoiced, and named the child Momotaro, or Little Peachling, becanse he came out of a peach.

3-1-3. お供の動物たちと出会う場面

【スウェーデン語版】

旅立って間もなく，桃太郎は一匹の猿に会いました。猿は，「桃太郎さん，どちらへ行くのですか」と尋ねました。「トロルの島へ宝を取りに行きます」。「帯につけた袋には何が入っているのですか？」と，猿がききました。「日本一の黍団子」と桃太郎は答えました。「ひとつ下さい。お伴します」と猿は頼みました。猿は黍団子をひとつもらうと，桃太郎のお供になってついて行きました。

Han hade inte färdats långt innan han mötte en apa, som frågade: “hvart är du på väg Momotaro?” “Till Trollens ö att eröfra deras skatter,” svarade Momotaro. “Hvad har du i påsen vid din gördel?” frågade apan vidare. “De bästa hirsbullar i hela Japan,” sade Momotaro. “Gif mig en så följer jag med och hjälper dig” bad apan och sedan han fått en bulle följde han med på färden for att hjälpa Momotaro.

★この後，キジ，犬が登場してお供となる。

【英語版】

Then first a dog came to the side of the way and said; “Momotaro! What have you there hanging at your belt?” He replied: “I have some of the very best Japanese millet dumplings.” “Give me one and I will go with you” said the dog. So Momotaro took a dumpling out of his pouch and gave it to the dog.

★この後，猿，キジが登場してお供になる。

3-1-4. 鬼の王を懲らしめ宝を得る場面

【スウェーデン語版】

トロルたちは勇敢な桃太郎に負けを認め，王様はこれまで幾多の歳月をかけて集めてきた宝をすべて持ってこさせました。そこには，姿を見えなくする帽子と外套（隠れ蓑笠），潮の満ち引きを統べる宝珠，珍しい珊瑚や麝香（じゃこう），エメラルド，ウミガメの甲羅（べっ甲），金銀がやまのようにありました。トロルたちは，王様を解放しても

らうかわりに，全ての宝を桃太郎に渡しました。

Då underkastade sig trollen den tappra Momotaro och deras kung lät hemta fram alla skatter han samlat under oräkneliga år. Där funnos hättor och kåpor, som gjorde sina bärare osynliga; juveler, som regerade hafvets ebb och flod; rarakoraller, mysk, smaragder och sköldpaddskal och både guld och silfver i hopar. Allt gåfvo trollen åt Momotaro, som i gengäld frigaf deras kung, hvarpå han drog hem med sina rikedomar.

【英語版】

After this Akandoji the chief of the devils said he would surrender all his riches. “Out with your riches then;” said Momotaro laughting. Having collected and ranged in order a great pile of precious things, Momotaro took them,

宝についての詳しい記述があることと，鬼の大将の名前が示されていないところに英語版との違いがある。

以上の比較から，スウェーデン語版のちりめん本は，英語版からの重訳ではない可能性が高い。

3-2. スウェーデン語版と先行の英訳日本昔話との比較

スウェーデン語版のちりめん本が発行される以前に，A.B.Mitfordの*Tales of Old Japan*(1871)，Griffisの*Japanese Fairy World*(1887)が出版されている。これら二冊にも桃太郎の話が収められている。スウェーデン語版が，これらの二冊の影響を受けているか，3-2-1題名，3-2-2爺の職業，3-2-3子授けを願う場面，3-2-4桃太郎が誕生する場面，3-2-5お供の現れる順番，3-2-6宝，について比較を行う。

3-2-1. 題名

The Adventures of Little Peachling(Mitford)

PEACH-PRINCE, AND THE TREASURE ISLAND (Griffis)

MOMOTARO (Zilliacus)

題名は，全て異なっている。

3-2-2. 爺の職業

An honest old wood-cutter (Mitford)

Woodcutter (Griffis)

木こり(Zillicus)

3-2-3. 子授けを願う場面

なし(Mitford)

…they were very lonely for they had no child, and often grieved over their hard lot. (Griffis)

Griffisの文に「子どもがいない」という文章はあるが，スウェーデン語版のように神々(gudarna)に子授けを願う描写はない。Zilliacusが日本の民俗を紹介するために加えた文章なのではないかと考えられる。

3-2-4. 桃太郎が誕生する場面

The old man soon came down from the hills, and the good wife set the peach before him, when, just as she was inviting him to eat it, the fruit split in two, and a little puling baby was born into the world.(Mitford)

He was just about to cut it open, when the peach fell in half, and there lay a little baby boy. (Griffis)

Mitfordは桃がひとりでに割れたとし，Griffisは爺が桃を半分に切ろうとした様子が語られている。スウェーデン語版では，桃はひとりでに割れており，展開としてはMitfordに近い。

3-2-5. お供の現れる順番

A ape, a pheasant, a dog (Mitford)

A dog (He took his little dog with him, giving him a millet dumpling now and then), a monkey, a pheasant (Griffis)

スウェーデン語版は，猿(en apa)，キジ(en fasah)，犬(en hund)の順番でお供に加わっている。Mitfordも同様である。

3-2-6. 宝

There were caps and coats that made their wearers invisible, jewels which governed the ebb and flow of the tide, coral, musk, emeralds, amber, and tortoiseshell, besides gold and silver. (Mitford)

In the centre of the island was the giant Oni’s castle, built inside a great cave which was full of all kinds of treasures such as every one wants. These are:

1. The hat which makes the one who puts it on invisible. It looks just like a straw hat, but has a tuft of fine grass on the top, and a pink fringe like the lining of shells, around the brim.
2. A coat like a farmer’s grass rain-cloak, which makes the wearer invisible.
3. The crystal jewels which flash fire, and govern the ebb and flow of the tide.
4. Shippō, or “the seven jewels,” namely gold and silver, branch of red coral, agate, emerald, crystal and pearl. All together called takare mono, or precious treasures. (Griffis)

スウェーデン語版は,「姿を見えなくする帽子と外套(隠れ蓑笠),潮の満ち引きを統べる宝珠,珍しい珊瑚や麝香(じゃこう),エメラルド,ウミガメの甲羅(べっ甲),金銀」とあり,Mitfordの記述と重なる。

3-3. スウェーデン語版と日本の「桃太郎」との比較

日本では口承で桃太郎が伝えられる他,赤本等草双紙の題材としても好まれていた。そのため,影響関係の有無を断定することは難しい。猿雉犬の順番で登場し,鬼の宝として語られるものの種類が同一である草双紙類の桃太郎は現在のところ確認できていない。今後特定される可能性はあるが,必ずしも広く普及していたものではないことも予想される。

3-4. *MOMOTARO* のまとめ

以上の分析から,スウェーデン語版*MOMOTARO*は英語版からの直訳ではないことが明らかになった。内容と記述の面から,近いものはA. B. Mitford の *Tales of Old Japan* の桃太郎である。Zilliacusは,著書 *Japanesiska studier och skizzer*(1896)でも,赤穂浪士の討ち入りの話や鍋島の化け猫騒動など,*Tales of Old Japan*から訳したと思われる作品を載せている。それらの事実を鑑みるに,ちりめん本もMitfordを参考に文章を書いた可能性が高い。

また,ちりめん本や先行英訳日本昔話には記されていない,日本が多神教であり,子授けを神に祈る風習があることが加えられているところにZilliacus訳の特徴があると考えられる。

4. ちりめん本 *Sparfven med den Klippta Tungan*

4-1.「舌切雀」の英語版とスウェーデン語版の比較

英語版は*THE TONGUE CUT SPARROW*と題され,タムソンが文章を書いている。絵は小林永濯。

4-1-1冒頭部分,4-1-2雀の家族,4-1-3雀の宿での歓待の様子,4-1-4お爺さんが得た葛籠のなかみ,4-1-5婆の結末について比較を行う。

4-1-1. 冒頭部分

【スウェーデン語版】

むかし,日本の国に暮らしていたお爺さんとお婆さんが,雀をかわいがって,大切に世話をしていました。ある日,隣の意地悪なお婆さんが着物に糊をはろうと支度をしていました。そこへ雀がきて糊を食べてしまいました。

EN gammal gubbe och hans hustru, som för mycket länge sedan lefde i Japan, hade en tam sparf, den de höllo mycket af och vårdade på det bästa. En dag, då deras grannes hustru, en elak, gammal kärling, gjort i ordning en skål stärkelse för att stärka kläder, kom sparfven och åt upp stärkelsen.

【英語版】

IT is said that once upon a time a cross old woman laid some starch in a basin intending to put it in the clothes in her wash-tub; but a sparrow that a woman her neighbor kept as a pet eat it up.

スウェーデン語版では,主人公として雀の飼主である爺婆が登場するのに対して,英語版ではまず雀の舌を切る隣の婆が登場する。

4-1-2. 雀の家族

【スウェーデン語版】雀の妻と子どもたち

【英語版】雀の妻と子どもと孫たち

4-1-3. 雀の宿での歓待の様子

【スウェーデン語版】

すぐさま,雀の妻が,お爺さんとお婆さんが道中の足の汚れをすすげるように,入れ物(盥)に水をはって持ってきました。それから魚と米と米のワイン(酒)とたくさんのご馳走を並べて,お爺さんとお婆さんをもてなしました。お爺さんとお婆さんは,満腹になるまで食べたり飲んだりしました。しまいに雀が,大事なお客を喜ばせるためにぴょんぴょんと飛び跳ねて雀踊りを踊ったので,お爺さんとお婆さんはすっかり上機嫌になりました。

Sparfhustrun hemtade omedelbart ett käril med vatten så att de kunde tvätta vägdammet från sina fötter. Och sedan de det gjort blef där gästabud med fisk och ris och sake, eller risvin, och mycket annat godt. De åte och drucko allt hvad de kunde och blefvo alla så muntra att sparfven till sist hoppade upp och dansade sparfvedansen för att roa sina kära gäster.

【英語版】

…(It) spread a table for them, and loaded it with *sake* and fish till there was no more room, and made its wife and children and grandchildren all serve the table.

At last throwing away its drinking-cup it danced a jig called the sparrow's dance.

雀の妻子がご馳走と「雀踊り」でお爺さんとお婆さんをもてなす展開は同一であるが,スウェーデン語版には足を濯ぐ場面が加えられている。これは挿絵を説明するために挿入されたと考えられる。

4-1-4. お爺さんが得た葛籠のなかみ

【スウェーデン語版】

家でカゴを開けてみると,なかには高価な絹の反物やら,金やら銀やら宝石やらがたくさん入っていました。不思議なカゴから宝を取り出しても,取り出しても,なかから宝

が出てくるので，お爺さんとお婆さんは雀の厚意でいっぺんにお金持ちになりました。

Där öppnade de sin korg och funno hela rullar af dyrbart siden samt guld, silfver och juveler utan ända. Ju mera de togo ut ur den förtrollade korgen, desto mera fanns där kvar så att de på en gång blefvo mycket rika genom sparfvens frikostighet.

【英語版】

And when they had opened it and looked they found gold and silver and jewels and rolls of silk. They never expected any thing like this. The more they took out the more they found inside.

スウェーデン語版も英語版も，尽きない金銀と宝石，絹を得た点は同じである。

4-1-5. 婆の結末

【スウェーデン語版】

ところが，カゴのなかに宝は無く，かわりに恐ろしい形相のトロルがたくさん飛び出してきました。そして，雀に意地悪をした報いにお婆さんをバラバラにしてしまいました。

Men där funnos alls inga skatter, utan i stallet hoppade en hop otäcka troll ut ur den och sleto den elaka käringen i stycken till straff för hennes grymhet mot sparfven.

【英語版】

Then when she took off the lid and looked in a whole troop of frightful devils came bouncing out from the inside and at once tore the old woman to pieces.

鬼(devil/troll) が葛籠から現れて，隣のお婆さんをバラバラにするという展開は，スウェーデン語版と英語版ともに共通である。スウェーデン語版は「雀に意地悪をした報いに」と説明が加わっている点に特徴がある。

4-2. スウェーデン語版と先行の英訳日本昔話との比較

*Momotaro*と同様に，4-2-1題名，4-2-2冒頭の登場人物，4-2-3雀の宿での歓待の様子，4-2-4婆の結末についてMitfordやGriffisの影響があるかを調査する。

4-2-1. 題名

THE TONGUE-CUT SPARROW. (Mitford)

THE TONGUE-CUT SPARROW. (Griffis)

4-2-2. 冒頭の登場人物

Once upon a time there lived an old man and an old woman. The old man, who had a kind heart, kept a young sparrow, which he tenderly nurtured. But the dame was a cross-grained old thing; (Mitford)

There was once an old man who had a wife with a very bad temper. (Griffis)

どちらも，雀を飼っているお爺さんと意地悪な妻(お婆さん) という対比が示されている。日本の昔話「舌切り雀」で語られることの多い対比である。

4-2-3. 雀の宿での歓待の様子

the sparrow led the old man to his home, and, having introduced him to his wife and chicks, set before him all sorts of dainties, and entertained him hospitably. (Mitford)

Then Mrs. Sparrow brought in slices of sugar-jelly, rock-candy, sweet potato custard, and a bowl of hot starch sprinkled with sugar, and a pair of chopsticks on a tray. Miss Suzumi, the elder daughter brought the tea caddy and tea-pot, and in a snap of the fingers had a good cup of tea ready, which she offered on a tray, kneeling. (Griffis)

どちらも舌切り雀は男性で，妻と娘たちがお爺さんを歓待している。ただしGriffisはお爺さんが５日間滞在しており，その間，雀の娘と碁をうったり，雀の妻の弾くギターを楽しんだりしたと書かれている。

4-2-4. 婆の結末

…all sorts of hobgoblins and elves sprang out of it, and began to torment her. But the old man adopted a son, and his family grew rich and prosperous. What a happy old man!(Mitford)

She took off the lid, when a horrible cuttle-fish rushed at her, and a horned oni snapped his tusks at her, a skeleton poked his bony fingers in her face, and finally a long, hairy serpent, with a big head and lolling tongue, sprang out and coiled around her, cracking her bones, and squeezing out her breath, till she died.After the good old man had buried his wife, he adopted a son to comfort his old age, and with his treasures lived at ease all his days.(Griffis)

どちらも婆の死と，爺が養子を迎えて安楽に暮らしたことを語っている。養子を迎える結末は，豆本『往昔舌切雀』(歌川広重絵, 夷福山人作),『したきりすゞめ』(歌川貞重画) に見られ，当時は珍しい結末ではなかったと推測される。

4-3. スウェーデン語版と日本の「舌切雀」との比較

英語版は滝沢馬琴『燕石雑志』からの翻訳と考えられている。しかし，馬琴の記録は一般的な「舌切雀」とは言いがたい。昔話や草双紙では，爺と隣の婆の対比となることは珍しく，さらに主人公の爺ではなく隣の婆の登場から話が始まることは稀である。江戸時代の草双紙では，雀の宿

を訪ねる人物は爺のみ，あるいは爺と娘であることが多く，雀は娘の姿で描かれるものが多い。婆は殺されて終わる話も多いが，改心して終わるものもみられる。

スウェーデン語版は英語版をもとにしながらも，冒頭を主人公の爺の描写から始める，挿絵に描かれた日本の風俗を文章でも説明する，読者に因果が伝わるように加筆するといった工夫を行っていることがわかる。

4-4. まとめ

Sparfven med den Klippta Tunganは，英語版を基にしながら，冒頭部分を書き換えたり，日本の風俗や，物語の解釈を加筆したりといったことをおこなっている。

Japanesiska studier och skizzer で日本の物語を紹介した際にも，Zilliacusは日本の風俗や出来事の理由について加筆を行っている（柗村，2020）。英語版のちりめん本がつくられたときは，日本人の英語学習用としての活用が意識されていたが，スウェーデン語版がつくられた際は，海外での販売が念頭にあるため，外国で理解されやすい訳文，あるいは海外の読者の興味をひく文章を意識したのだと考えられる。

5．ちりめん本 *GUBBEN OCH TROLLEN*

5-1.「瘤取」の英語版とスウェーデン語版の比較

英語版は*THE OLD MAN & THE DEVILS.*と題され，ヘボンが文章を書いている。絵は小林永濯。

5-1-1冒頭部分，5-1-2鬼の描写，5-1-3爺の踊りの描写，5-1-4瘤を取るやり取り，についてスウェーデン語版と英語版を比較する。

5-1-1. 冒頭

【スウェーデン語版】

ある日，片側の頬におおきな瘤のあるお爺さんが森へ木を伐りに行きました。

EN gubbe, som hade en stor vaxt, eller knöl, på sin ena kind, begaf sig en dag till skogen för att hugga ved.

【英語版】

A LONG time ago there was an old man who had a big lump on the right side of his face. One day he went into the mountain to cut wood,…

スウェーデン語版では瘤のあるのがどちらの頬か触れられていない。スウェーデン語版では爺が森へ行き，英語版では山へ行くが，相違点というより翻訳上の問題であろう。

5-1-2. 鬼の描写

【スウェーデン語版】

幾人かは赤い肌に緑の衣を着て，また幾人かは黒い肌に赤い衣を着ています。またある者は目ひとつで，またある者は口がありません。

Några voro röda med gröna kläder, andra svarta och klädda i rödt, medan några hade endast ett öga och andra ingen mun.

【英語版】

Some were red and dressed in green clothes; others were black and dressed in red clothes; some had only one eye; others had no mouth:

鬼の描写は英語版の丁寧な翻訳と思われる。

5-1-3. 爺の踊りの描写

【スウェーデン語版】

帽子を鼻先までおろして踊り始めました。

…(Han) drog sin mössan ned öfver näsan och började dansa.

お爺さんは体を揺らし，くるくると回り，まわりを走り，とても愉快に踊ったので，トロルたちは笑いに笑いました。

Han svängde sig och figurerade och snodde omkring så lustigt att trollen skrattade öfvermåttan.

【英語版】

…with his cap slipped over his nose and his axe sticking in his belt began to dance.

… the old man advancing and receding, swaying to and fro, and posturing this way and that way, the whole crowd laughed and enjoyed the fun,…

スウェーデン語版には斧を腰に差したという箇所はないが，それ以外は英語からの丁寧な翻訳となっていると考えられる。

5-1-4. 瘤を取るやり取り

【スウェーデン語版】

「私はもう何年もの長い間この瘤と共に暮らしてきましたので，離れがたく思います」と，お爺さんは抜け目なく言いました。「でも，お返し下さると約束していただけるのでしたら，また伺いましょう。瘤を質草にお取りください」。

“Jag har haft den här knölen i så många år att jag högst ogärna skiljes från den,” sverade gubben listigt, “men om ni lofvar att lämnna den tillbaka då vi träffas igen, må ni taga den i pant.”

【英語訳】

The old man replied, “I have had this lump many years and would not without good reason part with it;

but you may have it, or an eye or my nose eiter if you wish”.

瘤を取らないでくれと爺が頼むのは，瘤を取って欲しいための抜け目ない言葉であることがスウェーデン語版では明示される。不要なはずの瘤を取らないでくれとお爺さんが言うのは，本気なのか，方便なのか多様な解釈ができるところである。英語版には何も書かれていないが，Zilliacusは，お爺さんの知恵故の発言であることが読者に納得できるよう加筆を行ったと考えられる。

5-2. スウェーデン語版と先行の英訳日本昔話との比較

Mitfordは，“THE ELVES AND THE ENVIOUS NEIGHBOUR”という題名で瘤取を執筆しているが，Griffisの作品には瘤取は収められていない。

Mitfordの瘤取には，鬼の描写，お爺さんの踊りの描写，瘤を取らないでくれとお爺さんが鬼に頼む場面はない。また，冒頭は以下のようになっており，スウェーデン語版とも英語版とも異なっていることがわかる。

Once upon a time there was a certain man, who, being overtaken by darkness among the mountains, was driven to seek shelter in the trunk of a hollow tree.

以上のことから，スウェーデン語版はMitfordの影響を受けた可能性は極めて低いと言える。

5-3. スウェーデン語版と日本の「瘤取」との比較

瘤取は『宇治拾遺物語』『五常内義抄』『諺草』『醒酔笑』に記されている。田嶋（2014）はこのうち『宇治拾遺物語』の「鬼瘤被事」が，ちりめん本の典拠となっていることを示した。また『赤本黒本青本書誌』（木村，2009）を参照するに，草双紙の題材とされることは多くなかったようである。

5-4. *GUBBEN OCH TROLLEN* のまとめ

瘤取については，多少の省略や加筆が認められるものの，基本的は英語版に基づいていると考えられる。草双紙や，英訳での情報が少ないことも原因のひとつであろう。

なお，榎本（2014）は，『ちりめん本影印集成：日本昔噺輯篇』に収録されたスウェーデン語版ちりめん本に欠落箇所がある可能性を示唆している。しかし，オスロ大学でデジタル化された*Gubben och Trollen*(注3)も同じ丁数であり，また内容的にも欠けがないことから，欠落はないものと考えられる。

6．結論

スウェーデン語版のちりめん本三冊と，英語版ちりめん本三冊を比較したところ，単なる英語からのスウェーデン語訳といえないことが明らかになった。*MOMOTARO* はMitfordを参考にして文章が書かれたと考えられる。さらに日本の風俗を加えて文章を書きあげたようすがある。*Sparfven med den Klippta Tungan* は英語版とともに，別の資料を参照したことが伺える。さらに，挿絵に描かれた足濯ぎの風俗を伝える加筆や，理解をたすける因果の説明も加筆しているようすが伺える。*GUBBEN OCH TROLLEN* は，英語版を基にしながら，全体に文章を削るとともに，因果や解釈などの加筆も行っていることがわかる。

このように，Zilliacusはちりめん本をただ英語からスウェーデン語に翻訳したのではなく，複数の資料を用い，日本の風俗なども取り入れながら文章を構成していることが明らかになった。これは，スウェーデン語版ちりめん本が日本人の外国語学習用ではなく，最初から輸出されることを目的として作られるようになった証拠とも言えるだろう。

注記

注１　フィンランドにはスウェーデン語系フィンランド人が暮らしており，スウェーデン語の書物がフィンランドとスウェーデンで読まれている。ジリアクスはフィンランド人であるが，出版物はスウェーデン語で書いている。

注２　スウェーデン王立図書館LIBLISの書誌情報に拠る。http://libris.kb.se/bib/12140058

注３　Zilliacus, Konni. “Gubben och Trollen.” *Project Runeberg*. 2014. http://runeberg.org/gubbetroll/ (accessed 2020-09-09)

参考文献一覧

内ケ崎有里子「江戸期昔話絵本『舌切雀』ものについて－『雀の宿』（隠れ里）の変遷－」『口承文芸研究』第17号，日本口承文学会，1994.

木村八重子『赤本黒本青本書誌　赤本以前之部』青裳書店，2009. 日本書誌学大系95(1)

田嶋一夫『中世往生伝と説話の視界』笠間書院，2015.

中野幸一，榎本千賀編『ちりめん本影印集成：日本昔噺輯篇』勉誠出版，2014.（全4冊）

宮尾與男編『明治期の彩色縮緬絵本　対訳日本昔噺集』彩流社，2009.（全3巻）

小川誉子美「ヨーロッパにおける戦前の日本語講座－学習者と学習動機－」『日本語教育連絡会議論文集Vol. 20』日本語教育連絡会議事務局，2008年3月。（国立政策研究所HP https://www.nier.go.jp/saka/pdf/N20009025.pdf　最終アクセス2020年8月28日）

柗村裕子「*Japanesiska studier och skizzer* における日本

昔話の紹介について」『児童学研究－聖徳大学児童学研究所紀要－』第22号，聖徳大学児童学研究所，2020.

Griffis, William Elliot. “Japanese Fairy World.” *Project Gutenberg*. 2009-07-06. http://www.gutenberg.org/files/29337/29337-h/29337-h.htm#PEACH-PRINCE_AND_THE_TREASURE_ISLAND, (accessed 2020-08-28)
Freeman-Mitford, Algernon Bertram. “Tales of Old Japan”. *The Project Gutenberg eBook, Tales of Old Japan, by Algernon Bertram Freeman-Mitford.* 2004-07-24. http://www.gutenberg.org/files/13015/13015-h/13015-h.htm#page152, (accessed 2020-08-28).
Zilliacus, Konni. “Gubben och Trollen.” *Project Runeberg.* 2014. http://runeberg.org/gubbetroll/ (accessed 2020-09-09)
Zilliacus, Konni：löpning. *Uppslagsverket Finland-web edition*: www.uppslagsverket.fi. SchildtsförlagsAb. 2009-2012, SFV 2012-(accessed 2020-09-18)
VANDRINGSMANNEN OCH SKRIFTSTÄLLAREN KONNI. *Släktföreningen Zilliacus.* 2015-08-29 https://zilliacus.fi/exempelsida/den-foljande-generationen/vandringsmannen-och-skriftstallaren-konni/ (accessed 2020-09-09)

資料① 「桃太郎」邦訳（柗村訳）

2オ
何百年もむかし，日本のある川の辺りに，年老いたきこりとその妻が暮らしていました。息子がいてくれたらと思い，
2ウ
神々に子どもを授けて下さいとお願いしていましたが，子どもに恵まれませんでした。ある朝，きこりは森へ仕事に出かけ，妻は川へ洗濯に行きました。
3オ
洗濯をしていると大きな桃が川を流れてきました。妻は竹の枝で桃を引き寄せ，
3ウ （桃から子どもが生まれている絵）
4オ
きこりに食べさせようと家へ持って帰りました。まもなく，きこりが家へ帰ってきました。きこりが戻ると，妻は桃を持って出迎えました。けれども，きこりが桃を手に取ろうとした途端，桃がふたつに割れ，なかから小さな男の子が大きな泣き声をあげながら飛び出してきました。きこりも妻も大喜びに喜んで，本当の子どもとして育てることにしました。
その子は，桃から生まれたので「桃太郎」－ちいさな桃の子－と名付けられました。
桃太郎はまたたく間に，大きく，強く，勇敢に成長し，
4ウ
そして，将来の計画を立て始めました。ある日，とうとう桃太郎は両親に言いました。
5オ
「世の中に出て腕試しをする年頃になりました。トロルの島へ行って，宝を取って来ようと思います。旅の途中で食べる黍団子をつくって下さいませんか」
5ウ
お爺さんとお婆さんは桃太郎が遠くへ旅立ってしまうことを思うと悲しくなりましたが，桃太郎の言う通りにしてやりました。お爺さんとお婆さんは臼で粉を挽き，お団子を焼きました。桃太郎は別れの挨拶をして，元気に出かけて行きました。
旅立って間もなく，桃太郎は一匹の猿に会いました。猿は，「桃太郎さん，どちらへ行くのですか」と尋ねました。
6オ
「トロルの島へ宝を取りに行きます」。「帯につけた袋には何が入っているのですか？」と，猿がききました。「日本一の黍団子」と桃太郎は答えました。「ひとつ下さい。お伴します」と猿は頼みました。
6ウ
猿は黍団子をひとつもらうと，桃太郎のお供になってついて行きました。
しばらく行くとキジに会いました。キジは「桃太郎さん，どちらへ行くのですか」と鳴きました。桃太郎はさっきと同じように答えました。するとキジも黍団子をもらってお供になりました。
また先まで進んで行くと，今度は犬に会いました。犬が「桃太郎さん，どちらへ行くのですか？」と尋ねました。「トロルの島へ宝を取りに」。「黍団子をひとつ下されば，お供になりましょう」と犬が言いました。桃太郎は「さあ，どうぞ」と言い，
7オ （桃太郎たちが鬼ヶ島の門を開けようとする絵）
7ウ （鬼との戦いの絵）
8オ
犬は黍団子をもらい，桃太郎はトロルとの戦いの助けとなる猿，キジ，犬を引き連れて，先へとすすんで行きました。トロルの城の前に着くと，キジは門を飛び越え，
8ウ
猿は壁をよじ登って門を開き，桃太郎と犬は城の中庭に滑り込みました。桃太郎たちはトロルたちに会いましたが，彼らも黙って宝を渡す気はありませんでした。けれども桃

太郎とお供たちは勇敢に戦ったので，あっという間にトロルどもを追い詰め，トロルの王を生け捕りにしてしまいました。トロルたちは勇敢な桃太郎に負けを認め，王様はこれまで長い歳月をかけて集めてきた宝をすべて持ってこさせました。そこには，姿を見えなくする帽子と外套(隠れ蓑笠)，潮の満ち引きを統べる宝珠，

9オ　(宝を船に積んで戻る絵)

9ウ

珍しい珊瑚や麝香，エメラルド，ウミガメの甲羅(べっ甲)，金銀がやまのようにありました。トロルたちは王様を解放してもらうかわりに，全ての宝を桃太郎に渡しました。そこで桃太郎は宝を持って家に帰りました。そして，お爺さんとお婆さん，猿，キジ，犬といっしょに生涯幸せに暮らしました。

10オ　(お爺さんとお婆さんの家で祝宴をひらいている絵)

*丁の数え方は『ちりめん本影印集成 ：日本昔噺輯篇』に拠った。

資料②　「舌切雀」邦訳（柗村訳）

2オ

むかし，日本の国に暮らしていたお爺さんとお婆さんが，雀をかわいがって，大切に世話をしていました。

2ウ　(隣の意地悪婆が雀の舌を切って逃す絵)

3オ

ある日，隣の意地悪なお婆さんが着物に糊をはろうと支度をしていました。そこへ雀がきて糊を食べてしまいました。大した害をこうむったわけではないのにも関わらず，意地悪なお婆さんはカッとなって雀を捕まえて舌を切り，そのまま逃してしまいました。

何が起きたかを聞くと，お爺さんとお婆さんは深く悲しみ，かわいそうな雀を探しに出かけて行きました。お爺さんとお婆さんは，山を越え，野を超え，森を抜けて，

3ウ

名前を呼びながら，雀を探しましたが見つかりません。

4オ

とうとう，ある山のなかで，お爺さんとお婆さんは雀を見つけました。

4ウ　(お爺さんとお婆さんが雀の宿に迎え入れられ，足をすすいでいる)

5オ

そして，雀はお爺さんとお婆さんにまた会えたことを喜んで，すぐに二人を自分の家に案内すると，出来る限りのもてなしをしました。すぐさま，雀の妻が，お爺さんとお婆さんが道中の足の汚れをすすげるように，入れ物(盥)に水をはって持ってきました。それから魚と米と米のワイン(酒)とたくさんのご馳走を並べて，お爺さんとお婆さんをもてなしました。お爺さんとお婆さんは，満腹になるまで食べたり飲んだりしました。しまいに雀が，大事なお客を喜ばせるためにぴょんぴょんと飛び跳ねて雀踊りを踊ったので，お爺さんとお婆さんはすっかり上機嫌になりました。けれども日が暮れかかり，お爺さんとお婆さんが，

5ウ，6オ　(雀がご馳走と雀踊りで，お爺さんとお婆さんを歓待している)

6オ

「もう家に帰らなくては」と雀に告げると，

6ウ

雀はふたのついたカゴ(葛籠)をふたつ持ってきました。

7オ

「お土産をさしあげます」と，雀が言いました。「重いカゴと軽いカゴと，どちらをお持ちになりますか」

7ウ　(爺と婆が葛籠から小判や絹を出している絵)

8オ

「軽いカゴをいただきましょう」と，お爺さんとお婆さんが言いました。「私たちは年寄りで，軽いほうが持って帰るのに楽です」。雀は軽いカゴを渡しました。お爺さんとお婆さんはカゴを持って家に帰りました。家でカゴを開けてみると，なかには高価な絹の反物やら，金やら銀やら宝石やらがたくさん入っていました。不思議なカゴから宝を取り出しても，取り出しても，なかから宝が出てくるので，お爺さんとお婆さんは雀の厚意でいっぺんにお金持ちになりました。

隣のお婆さんはこの様子を見ると，羨ましくて，羨ましくて，仕方がなくなり，自分も雀たちを探して出かけて行きました。

8ウ

隣のお婆さんはあっという間に雀のお宿を見つけ，甘い言葉と親しげなそぶりで雀たちに取り入ろうとしました。雀にまったく歓迎されなかったとはいえ，お婆さんは土産に何かくれと頼みました。すると雀は，前と同じように二つのカゴを持ってきて，どちらかを選ぶようにと言いました。欲深いお婆さんは，重いカゴにはそれだけ重い宝が入っていると考えて，すぐさま重いカゴを選び，背中に背負って帰って行きました。

9オ

お婆さんはカゴを持ち上げるのもやっとでしたが，中にあるはずの宝のことを考えて，何とか前に進んで行きました。

9ウ　(雀が隣の婆の後ろ姿を指さして話している絵)

10オ

ようやく家に戻ると，お婆さんは急いでカゴを開けました。

10ウ
ところが，カゴのなかに宝は無く，かわりに恐ろしい形相のトロルがたくさん飛び出してきました。そして，雀に意地悪をした報いにお婆さんをバラバラにしてしまいました。
11オ　（葛籠から化物があらわれ婆を襲う絵）

資料③　「瘤取」邦訳（柗村訳）

2オ
「お爺さんとトロル」
　ある日，片側の頬におおきな瘤のあるお爺さんが森へ木を伐りに行きました。
2ウ　（爺が木の洞で雨宿りをしている絵）
3オ
仕事を終える前に風雨が激しくなり，爺は木の洞に身を隠す場所を探さなくてはなりませんでした。お爺さんが洞に座って，不安にかられて家に帰りたいと思っていると，急にたくさんの声がざわざわと近づいてくるのが聞こえました。森にいるのは自分ひとりと思っていたお爺さんは驚きましたが，声を押し殺して外のようすを覗き見ると，そこには奇妙なトロルの一群がいました。幾人かは赤い肌に緑の衣を着て，また幾人かは黒い肌に赤い衣を着ています。またある者は目ひとつで，またある者は口がありません。
3ウ
トロルたちは，洞のある木の近くで止まり，火を熾しました。火は昼のひかりのように明るくなりました。トロルたちはそこに腰を下ろし，ワインを飲んだり，食べたりしているうちに，とうとう陽気になった若いトロルが
4オ　（鬼の行列の絵）
4ウ　（酒盛りをしている間で，鬼が踊っている絵）
5オ
跳ね上がって，ダンスを踊りだしました。
5ウ
他のトロルのいく人かも踊りだし
6オ　（瘤のある爺が鬼の間で踊っている絵）
6ウ
他のトロルたちはやんやと面白がりましたが，年かさのトロルが「いやはやまったく愉快だが，何かもっと新しいものを見てみたいものだ」と言いました。これを聞いていたお爺さんは考えました。
7オ
「何が起きても構わないから，私も宴に加わりたい」。
そこでお爺さんは洞から這い出して，帽子を鼻先までおろして踊り始めました。急にお爺さんが現れたので，トロルたちは驚きましたが，
7ウ
お爺さんはトロルのことなどおかまいなしに，とにかく踊りました。お爺さんは体を揺らし，くるくると回り，まわりを走り，とても愉快に踊ったので，トロルたちは笑いに笑いました。「この爺さんは素晴らしい踊りの名人だ」と，年寄りのトロルが言いました。「いつも我々の宴にいてもらわなければならんな。爺さんが必ず来るように質草をとっておこう」。トロルたちは名案だと思いました。そして頬の瘤こそ滅多にないものだと考え，お爺さんに寄越せと言いました。「私はもう何年もの長い間この瘤と共に暮らしてきましたので，離れがたく思います」と，
8オ
お爺さんは抜け目なく言いました。「でも，お返し下さると約束していただけるのでしたら，また伺いましょう。瘤を質草にお取りください」。
8ウ
トロルたちは瘤を取ることに決めました。トロルが痛みもなくするりと瘤を取ると同時に夜が明けだし，トロルたちはどこかへ去って行きました。
9オ
お爺さんは瘤がなくなったことを喜んで，仕事の続きもせずに，家へ急いで帰り，お婆さんにこれまでのことを語って聞かせました。お爺さんの幸運に，ふたりとも心から喜びました。けれども隣に住む瘤のあるお爺さんは，彼らのことをひどく羨み，自分の瘤もトロルに取ってもらうように試してみることにしました。夕方，隣のお爺さんは森へ行き，あの洞のある木に身を隠しました。やがて昨晩のように，トロルたちがやって来て，ワインを飲み，愉快に過ごしました。
9ウ
隣のお爺さんが木の洞から出てくると，トロルたちは「踊りの名人の爺さんが，現われた。さあ，盛り上がるぞ」と叫びました。
けれども，隣のお爺さんは踊りが下手で，あまりに不器用だったので，トロルたちは興をそがれて，踊りをやめるように言いました。「もうたくさんだ」と，年寄りのトロルが言いました。「さあ，おまえの質草は返してやる」。年寄りのトロルはポケットから瘤を取り出して，隣のお爺さんのもう片側の頬にさっとつけました。こうして，隣のお爺さんは瘤ひとつの代わりに，瘤ふたつをつけて帰るはめになりました。そして，死ぬまで瘤ふたつをつけていたそうです。
10オ　（隣のお爺さんが瘤をふたつつけて家に帰る絵）